



## 「秋祭り」 収穫を祝い、神様に感謝を捧げる儀式



毎年、10月17日に執り行われる「神嘗祭」(かんなめさい)は、数ある宮中祭祀の一つで、その年の初穂を天照大御神に奉納し、「五穀豊穰」を感謝する儀式です。また、この時期は宮中に限らず、「秋祭り」と称されるお祭りが各地で開催されます。規模や形式は様々ですが、基本的には神嘗祭と同様に、その年の収穫を祝い、神様に対して感謝を捧げることを目的としています。

これは豊作を願う「春祭り」や一年の「無病息災」を祈るお正月の行事などにも共通することで、本来、祭りは神様を「祀る」ことを土台にした、宗教的要素の強いものでした。古来、日本には万物万象に神が宿るとされる「八百万の神」という考え方があり、先人はそれに対する感謝を「祭り」という形で表わしました。その結果として、自然との共生を大切にした国を作り上げてきたのです。

実りの秋には全国各地で、郷土の伝統や歴史を再現した秋祭りが行われています。参加する際には大自然の恵みにも意識を向けて、感謝を深めたいものです。

## 「赤い羽根共同募金」 全国一斉実施 (10月1日～)

「赤い羽根共同募金」運動は、平成27年にスタートから70周年を迎えました。今年も10月1日から全国で一斉に実施されています。

この募金運動は、戦後復興の一助となるよう、昭和22年に市民主体の民間運動として始まりました。その後、「自分の町を良くするしくみ」として、地域福祉の推進のために現在まで続いているのです。このような大きな運動の中で人と人との「助け合い」に限らず、日常



の家庭や学校においても、私たちのできることは、実にたくさんあります。例えば、家庭では「玄関の靴を家族の分まで揃える」、学校では「共同で使用しているトイレのスリッパを整頓する」などがあります。また、「率先して挨拶する」「大きな声で返事をする」ことも、学校の雰囲気を作る意味で助け合いと言えるでしょう。



どんなに小さなことでも、誰かのためを思っている行いは、その人のみならず周囲の人をも笑顔にする力があります。まずは、自分にできる小さなことから、「助け合いの輪」を広げていきましょう。